

二条駅で待ち合わせ

第20回「再生塾・日本酒探訪会」は、参加者総勢18名（後藤、本田、樋口、森栗、山本、尾崎、東、田中、池田、堀、武田、長坂、児玉(健)、井上(学)、西窪、藤井、飯田、大塚）（名簿順、敬称略）で、令和7年8月9日(土)に京都市にて開催されました。

凝ったデザインの高架橋

この日は猛暑。JR二条駅前から京都市平安京創生館へは、日差しを避けてJR山陰本線の高架橋沿いに歩きました。この高架橋は、凝ったデザインで、側道もインターロッキングを使うなど景観に配慮していました。

強い日差しを避けて高架橋の直下を歩いていましたが、どうも所どころに出っ張りがあり、歩きにくいのです。なぜこんな設計なのかなと話題にしていたのですが、私たちは車道部分を歩いていました。いわゆるコミュニティ道路になっており、わざとクルマを通りにくくしていたのです。

大きな平安京の模型

最初の目的地の平安京創生館に到着しました。平安宮造酒司跡に建つこの平安京創生館には、平安京復元模型が展示してあります。このほか、鳥羽離宮復元模型、洛中洛外図屏風(上杉本)、なども展示してあり、「まちづくり」に携わるメンバーは、興味深く、かつ、楽しく勉強できたのではないのでしょうか。

平安京創生館を離れて、一行は次の目的地である佐々木酒造をめざして、丸太町通を東に向かいます。途中、千本丸太町で「大極殿跡」を見学しました。見学と言っても石碑を眺めるだけなのですが…。



JR二条駅前での集合写真(例によって合成)。二条駅の木製ドームがちょっとだけ写っています。



景観に配慮したJR山陰本線の高架橋と側道。そして、この日の日差しの強さが分かります。



平安宮造酒司跡の石碑と解説が書かれた立て札



平成6年、平安建都1200年記念事業の一環として制作された平安京復元模型(縮尺1/1000)



小さな公園に、ぽつんと建つ大極殿跡の石碑

洛中の酒蔵「佐々木酒造」

京都のまちなかにある佐々木酒造。昔はこの界限には多くの造り酒屋が集まっていたとのこと。佐々木酒造の創業は明治26年で、その時点では131軒の蔵元があったとのこと。その後、事業を大きくするために伏見に移転したりして、現在、洛中の造り酒屋は佐々木酒造と第7回探訪会で訪問した松井酒造の2軒のみとなっています。

酒蔵ツーリズム事業

佐々木酒造では、「酒蔵ツーリズム事業」に取り組んでいます。酒蔵見学は有料ですが、しっかりしたプレゼンテーション、絶妙なトーク、試飲と充実した内容となっています。

早朝の酒蔵見学やホテルからの集客など様々な工夫をしています。もちろん、しっかりとした酒造りあつてのことですが、こういう事業展開もあるんですね。



大盛り上りのパーティールームの勉強会

【やわらぎ水】

・佐々木酒造が、実際に販売しているお酒の銘柄は、次のうちどれでしょうか。

- A. まるたけえびす
- B. おしおいけ
- C. あねさんろっかく
- D. たこにしき



佐々木酒造の昔懐かしい玄関口と杉玉



- 本日の試飲は、この3つ
- ①聚楽第 純米大吟醸
 - ②古都大吟醸原酒
 - ③夏方純米吟醸原酒(熟成)



抜群のトーク技術を持つ酒蔵ツーリズムのスタッフさん



佐々木酒造前での記念撮影

記念的な手作り勉強会

今回の勉強会は、いつもと趣向を変えてパーティールームを借り行いました。皆さんに「推しのお酒」を持ってきてもらい、食べ物は手分けして買出ししての手作り感満載の勉強会でした。



持参したお酒の説明をする田中さん

「百点満天」で乾杯！

まずは、井上(哲)さんから差し入れて頂いた「百点満天」で乾杯。このお酒は、交野市の市民大学で酒米から酒造りをしているお酒です。そのあとも次々と推しのお酒が出て来て、様々な話題で盛り上がり、話は尽きませんでした。

皆さんからのお酒が多くて、呑み切れず、最後はお酒希望者による「じゃんけん大会」を行いました。じゃんけん音頭取りの西窪さんの“じゃ～んぽ・じゃんけん”の声が、まだ聞こえてくるような気がします。



じゃ～んぽ・じゃんけん！

今後の日本酒探訪会は…

まずは、9月13日(土)にJCOMM 札幌大会にて、日本酒探訪会の取組を紹介してきます。そして、次回は年明けの1月頃を予定しています。詳しくは、事務局より連絡いたしますので、ご参加よろしく願いいたします。